

○中山間地域等直接支払交付金 棚田地域振興活動加算の目標について

資料1-① 別紙

No	市町村	集落協定名	集落協定における棚田加算の達成目標			棚田地域振興活動計画の目標			協定書と活動計画の整合性の有無	
			【ア 棚田等の保全】	【イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮】	【ウ 棚田を核とした棚田地域の振興】	【ア 棚田等の保全】	【イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮】	【ウ 棚田を核とした棚田地域の振興】		
県東部	1	富山市	小羽地区広域	【集落機能強化】 農業ボランティアの人数を10人から15人に増加。	【棚田の価値を活かした活動】 小羽・下伏・土・根ノ上集落の棚田で開催している農業体験等の自然ふれあいイベントを年1回から年2回に増加。	【生産性向上】 棚田米を使用した日本酒の開発・製造に取り組み、年間200本(720ml)製造。	【集落機能強化】 農業ボランティアの人数を10人から15人に増加。	【棚田の価値を活かした活動】 小羽・下伏・土・根ノ上集落の棚田で開催している農業体験等の自然ふれあいイベントを年1回から年2回に増加。	【生産性向上】 棚田米を使用した日本酒の開発・製造に取り組み、年間200本(720ml)製造。	有
	2	黒部市	黒部市枕野	【集落機能強化】 枕野棚田の保全活動に取り組む担い手を新たに1名以上確保。 【生産性向上】 枕野棚田で、肥料散布機付ドローン等を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 枕野棚田約700㎡で新たにヒマワリの育成。	【集落機能強化】 地元小学生等(県内、県外小学生各25人程度)に枕野棚田を訪れてもらい、郷土への愛着を深めてもらうとともに、自然に触れ合える機会を創出。	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保する。 【生産性向上】 令和6年度末までに肥料散布機付ドローン等を1台導入する。枕野棚田約8haで活用することで、作業効率を向上。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年度末までに新たに枕野棚田約700㎡でヒマワリの育成に取り組む。	【集落機能強化】 「くろべ都市農村交流」により、新たに枕野棚田を訪れてもらい、地元小学生に郷土への愛着を深めてもらうとともに、都会の小学生に美しい棚田の景観など豊かな自然に触れ合える機会を創出する。年間50人(市内、県外小学生各25人)の参加者を確保。	有
	3	黒部市	黒部市浦山12区	【集落機能強化】 浦山12区棚田の保全活動に取り組む担い手を新たに1名以上確保。 【生産性向上】 浦山12区棚田で、肥料散布機付ドローン等を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 浦山12区棚田では、地元組織と連携し、虫が育成できる自然環境を保全し、虫の観察会に年間15人程度の参加者を確保。	【集落機能強化】 地元小学生等(県内・県外小学生各25人程度)に浦山12区棚田を訪れてもらい、郷土への愛着を深めてもらうとともに、自然に触れ合える機会を創出。	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保する。 【生産性向上】 令和6年度末までに肥料散布機付ドローン等を1台導入する。浦山12区棚田約21haで活用することで、作業効率を向上。	【棚田の価値を活かした活動】 浦山地区では、小中学生向けに虫の観察会を年間1回開催。浦山12区棚田では、虫が育成できる自然環境を保全するために、虫の幼虫が孵化した後の梅雨明け頃の草刈りや、水路の中での生育環境を確保するため泥上げを部分的にとどめることなどの協力を呼びかける。観察会には年間15人程度の参加者を継続して確保。	【集落機能強化】 既存事業である「くろべ都市農村交流」の訪問箇所として、新たに浦山12区棚田を訪れてもらい、地元小学生に郷土への愛着を深めてもらうとともに、都会の小学生に美しい棚田の景観など豊かな自然に触れ合える機会を創出する。年間50人(市内、県外小学生各25人)の参加者を確保。	有
	4	立山町	立山町四谷尾	【生産性向上】 令和6年までに四谷尾の棚田で防除用ドローンを1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに四谷尾棚田にひまわり等の景観植物を0.3ha植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。	【生産性向上】 令和6年までに東谷の棚田で自走式草刈り機や防除用ドローンを5台導入。	令和6年までに四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田に新規取り組みとして、ひまわり等の景観植物を1.5ha植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。	有
	5	立山町	立山町芦見	【生産性向上】 令和6年までに芦見の棚田で防除用ドローンを1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに芦見棚田にひまわり等の景観植物を1ha植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。				有
	6	立山町	立山町谷口	【生産性向上】 令和6年までに谷口の棚田で自走式草刈り機を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに谷口棚田にひまわり等の景観植物を0.1ha植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。				有
	7	立山町	立山町六郎谷	【生産性向上】 令和6年までに六郎谷の棚田で自走式草刈り機を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに六郎谷棚田にひまわり等の景観植物を0.15ha植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。				有
	8	立山町	立山町虫谷	【生産性向上】 令和6年までに虫谷の棚田で自走式草刈り機を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに虫谷棚田にひまわり等の景観植物を14a植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。				有
	9	立山町	立山町谷	【生産性向上】 令和6年までに谷の棚田で自走式草刈り機を1台導入。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年までに谷棚田にひまわり等の景観植物を30a植栽。	【集落機能強化】 令和6年までに、四谷尾集落の棚田をはじめとした近隣棚田と連携して棚田を周遊する新規イベント開催や、サイクリングマップを制作し、年間30人の観光客を誘客。				有

○中山間地域等直接支払交付金 棚田地域振興活動加算の目標について

資料1-① 別紙

No	市町村	集落協定名	集落協定における棚田加算の達成目標			棚田地域振興活動計画の目標			協定書と活動計画の整合性の有無	
			【ア 棚田等の保全】	【イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮】	【ウ 棚田を核とした棚田地域の振興】	【ア 棚田等の保全】	【イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮】	【ウ 棚田を核とした棚田地域の振興】		
県西部	10	高岡市	高岡市沢川	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保。 【生産性向上】 密苗用田植機1台を導入。	【生産性向上】 鳥獣被害の防止に努め、被害額を30万円/年以下にし、生産面積を増やす。	【棚田の価値を活かした活動】 ・関係人口の創出・拡大による地域振興 棚田米を活用したもちつき催し。 今後5年間で、参加者で食べ物などを作る催しを新たに1つ行う。(計年2回) 令和6年までに、参加者16人(令和元年)から20人以上を増やす。	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保。 【生産性向上】 密苗用田植機1台を導入。	【生産性向上】 鳥獣被害の防止に努め、被害額を30万円/年以下にする。	【棚田の価値を活かした活動】 ・関係人口の創出・拡大による地域振興 棚田米を活用したもちつき催し。 今後5年間で、参加者で食べ物などを作る催しを新たに1つ行う。(計年2回) 令和6年までに、参加者16人(令和元年)から20人以上を増やす。	有
	11	高岡市	高岡市山川	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保。	【生産性向上】 鳥獣被害の防止に努め、被害額を30万円/年以下にし、生産面積を増やす。	【棚田の価値を活かした活動】 ・関係人口の創出・拡大による地域振興 作物(マコモダケ、マルイモ等を予定)の収穫体験を開催し、年間の参加者数15人を目指す。	【集落機能強化】 新たな担い手1名以上を確保。	【生産性向上】 鳥獣被害の防止に努め、被害額を30万円/年以下にする。	【棚田の価値を活かした活動】 ・関係人口の創出・拡大による地域振興 作物(マコモダケ、マルイモ等を予定)の収穫体験を開催し、年間の参加者数15人を目指す。	有
	12	氷見市	細越集落協定	【集落機能強化】 細越の郷営農組合等の協力を得ながら、地域住民が中心となって保全活動を担ってもらえる体制を整備し、担い手を2人確保。	【生産性向上】 ハトムギ播種機を1台導入し、ハトムギの生産量を5.5t/年から6t/年に増産。	【棚田の価値を活かした活動】 細越の棚田におけるハトムギオーナー制度を活用したイベントを年2回開催し、交流人口を100人から120人に増加。	【集落機能強化】 棚田全体で担い手を新たに6人確保。	【生産性向上】 棚田全体の1haのほ場において、生産性の向上等を図るため農業機械(自走式草刈り機3台、ドローン1台、斜面用草刈り機1台)を導入し省力化を推進。	【棚田の価値を活かした活動】 -年4回、細越の棚田や長坂の棚田等で農村交流体験イベントを継続開催し、年間400人から年間500人に参加者を増やし交流人口の創出を図る。	有
	13	氷見市	論田集落協定	【生産性向上】 自走式草刈り機を1台導入し、約1ha農用地を共同で管理。	【棚田の価値を活かした活動】 ソバやアブラナ等の景観植物を50a植栽。	【集落機能強化】 大学生等のインターンシップ事業を隣集落の熊無集落と連携して取り組み、体験者を10人以上確保。	【生産性向上】 棚田全体の1haのほ場において、生産性の向上等を図るため農業機械(自走式草刈り機3台、ドローン1台、斜面用草刈り機1台)を導入し省力化を推進。	【棚田の価値を活かした活動】 論田の棚田で「ソバ」「アブラナ」等の景観作物を新たに50a植栽。	【集落機能強化】 論田の棚田と熊無の棚田が連携し、大学生等のインターンシップ事業に組み込み体験者を10人以上確保。また、農業体験を通して移住定住者を1世帯獲得。	有
	14	氷見市	長坂集落協定	【生産性向上】 長坂の棚田で「スパイダーモアあぜ向き斜面用草刈り機」2台を導入し、共同で行う草刈りの面積を約20a増加。	【棚田の価値を活かした活動】 長坂の棚田において「つままの木」の植樹を行い、「つままの里」を構築。	【集落機能強化】 長坂の棚田地域における棚田オーナー制度の交流人口を400人から500人に増加。	【生産性向上】 棚田全体の1haのほ場において、生産性の向上等を図るため農業機械(自走式草刈り機3台、ドローン1台、斜面用草刈り機1台)を導入し省力化を推進。	【棚田の価値を活かした活動】 長坂の棚田において全国植樹祭でお手播きされた「つままの木」の植樹を新たに行い、天然記念樹「つままの里」を構築。	【集落機能強化】 -年4回、細越の棚田や長坂の棚田等で農村交流体験イベントを継続開催し、年間参加者を400人から500人に増やす。 ・長坂の棚田で、新たに空き家を活用した宿泊施設を2棟程度整備し、年間120人の宿泊者を確保。	有
	15	氷見市	胡桃集落協定	【集落機能強化】 ドローンを1台導入し、オペレーターを5人育成するとともに、スマート農業を推進。	【生産性向上】 ドローンの導入により、作業の効率化を図り、減農薬、減化学肥料「特別栽培米コシヒカリ」、低タンパク米「春陽」の販売量を10トンから11トンに増加。	【棚田の価値を活かした活動】 氷見高校生を対象にした田植え・稲刈り・はさかけ体験イベントを年2回開催し、体験者数を20人から30人に増加。	【集落機能強化】 棚田全体で担い手を新たに6人確保。	【生産性向上】 生産性の向上等を図るため農業機械(自走式草刈り機3台、ドローン1台、斜面用草刈り機1台)を導入し省力化を推進。	【棚田の価値を活かした活動】 -年4回、細越の棚田や長坂の棚田等で農村交流体験イベントを継続開催し、年間参加者400人から500人に増やす。	有
	16	氷見市	熊無集落協定	【生産性向上】 自走式草刈り機を1台導入し、耕作放棄地を50a削減。	【棚田の価値を活かした活動】 熊無の棚田において、特産加工品を新たに1品目以上開発。	【集落機能強化】 大学生等のインターンシップ事業を隣集落の論田集落と連携して取り組み、体験者を10人以上確保。	【生産性向上】 棚田全体の1haのほ場において、生産性の向上等を図るため農業機械(「自走式草刈り機」3台、「ドローン」1台、「斜面用草刈り機」1台)を導入し省力化を推進。	【棚田の価値を活かした活動】 熊無の棚田で特産加工品を新たに2品目(食用ほおずき・ペピーノ)開発。	【集落機能強化】 論田の棚田と熊無の棚田が連携し、大学生等のインターンシップ事業に組み込み体験者を10人以上確保する。また、農業体験を通して移住定住者を1世帯獲得。	有
17	射水市	野手地区環境保全会	【集落機能強化】 野手集落の棚田の保全活動に取組む人数を35人から45人に増加。 【生産性向上】 野手集落の棚田における農地集積率を98.3%に現状維持。	【生産性向上】 イチジクの直販量を200パックから400パックに増加。	【棚田の価値を活かした活動】 ため池に飛来する白鳥を観察するための環境整備を行い、年間200人の来訪者を誘客。	【集落機能強化】 令和6年度までに、金山棚田の保全活動に取組む人数を35人から45人に増加。 【生産性向上】 令和6年度までに、金山棚田における農地集積率を88.3%から90.0%に向上。	【生産性向上】 令和6年度までに、イチジクの直販量を200パックから400パックに増加。	【棚田の価値を活かした活動】 令和6年度までに、ため池に飛来する白鳥を観察するための環境整備を行い、年間200人の来訪者を誘客。	有	